

P.02  
特集

沖縄の観光を医療の側面からサポート

医療ツーリズムの

可能性とその課題



撮影・江森康之

P.11  
ちゅ  
美らさん  
インタビュー

女優 満島ひかりさん

沖縄は「帰る場所」、そして「お母さん」のような存在  
神秘的な強さやゆるやかさが、生きる源です

## [CONTENTS]

P.04	オピニオンリーダーに聞く (株)沖縄銀行 頭取 玉城義昭さん
P.05	海外レポート from 香港 競争激化する香港市場の攻略法
P.06	経営者は語る (株)オーディフ 代表取締役 普天間初子さん
P.07	発見!ご当地ヒット商品 第三回 嘉手納町 グアバナティー
P.08	元気企業紹介 (株)拓琉金属
P.10	トピックス
P.11	OVS ニュース

## Feature — 特集

# 沖縄の観光を医療の側面からサポート 医療ツーリズムの可能性とその課題

健診や治療を受ける目的で他国を訪れる「医療ツーリズム」。

国や県が積極的に推進する方針を掲げ、沖縄にも中国を中心とした外国からの受診者が訪れ始めている。

接遇を含めた医療水準の高さを海外へアピールするだけでなく、

それにもなう沖縄観光の需要も期待されることから、予測される経済効果の大きさに関心が高まっている。

国や県が積極的に導入の動き  
経済効果と雇用の場として注目

2010年6月、政府が「新成長戦略」を閣議決定し、医療ツーリズムに関する項目を盛り込んだ。その中には、「アジアの富裕層等を対象にした健診、治療等の医療及び関連サービスを観光とも連携して促進していく」とある。さらに、沖縄県でも2011年4月「新たな沖縄振興のための制度提言」の中で、「国際観光推進制度」の創設を求め、医療ツーリズムの推進支援を財政措置に加えている。

医療ツーリズムは、タイやシンガポール、韓国などで盛んに行われ、医療費の安さや良質なサービス等をセールスポイントに、欧米や中東諸国などから外国人を受け入れている。これらアジアの新興国の動きを受け、日本でも医療ツーリズムに関心が高まってきた。

このような動向を踏まえ、行政が本格的に動き出したのは2010年のことだ。6月には沖縄総合事務局が「沖縄ウェルネス産業研究会」を設置、10月には報告書がまとまった。その中で、沖縄独自の国際医療交流について「万国医療津梁」の呼称を提案。2020年度までの外国人受け入れを9万人と想定し、そこから波及する市場規模と経済波及効果を1420億円とした。雇用人数は医療関係者8000人を含めた1万人余と試算し、新たな雇用の場としての期待は大きい。

報告書では、万国医療津梁実現に向けて「コンシェルジュ機能を持った仲介事業者（アレンジャー）の創出等が必要」としているが、既にこの機能を持ち事業展開している会社がある。豊見城市の株式会社トリポッドだ。

沖縄の医療水準の高さをPRし、  
外国人観光客の急患対応の確立へ

トリポッドは医療と観光を融合させたサービスを提供するため、医師や薬剤師ら医療関係者が集まり2010年3月に設立された。取締役には中国と日本の2カ国の医師免許を持つ中国人医師も加わり、中国からの富裕層の誘客を進めている。県内では社会医療法人友愛会、医療法人おもと会と提携し、健康診断を中心に受け入れている。沖縄滞在中の1日間を健診に充て、残りの滞在期間はリゾートホテルに宿泊し、沖縄観光を楽しんだ後、帰国するスケジュールだ。トリポッドは医療分野の仲介を担当し、宿泊や観光、チケットの手配等は旅行業者が行う。モニターツアーを経て、2011年6月以降、料金を支払って来県した中国人は20人を超えた。受診者の反応は良く、さらに、それまで独自に誘客活動を展開していた中国の大手保険機構や、同じく中国の公務員が加盟する団体との連携も実現化に向けて本格的に始動している。

玉城清剛代表取締役は開業医としてクリニックも経営。医師として多忙を極めながらトリポッドを設立した第一の目的は、増え続ける外国人観光客へ医療面での対応、整備の必要性を感じたことにあるという。「外国人観光客の急患受け入れ態勢を作り上げることによって、安心して沖縄を訪れることができ、観光立県・沖縄のイメージアップにもなる」。その延長線上で「沖縄や日本の医療水準の高さを世界にPRできる」と強調する。



写真上) 2011年8月に開催された万国医療津梁協議会の北京ミッション。  
写真下) 通訳がついて行われたモニターツアー客への問診



沖縄の国際化を医療の分野から目指そうとしているトリポッドの玉城代表(写真右)と元田取締役

しかし、県民への医療サービスの質が低下するのではないかと懸念する声も伝わっているという。元田取締役は「あくまでも県民の医療の質を確保した上で、施設の空いている時間帯を利用して健診などを行っている。観光客に安心して旅行していただけるための第一段階として医療ツーリズムがある」と話し、行政を含めた受け入れ態勢の早急な整備を求めている。

受け入れられる病院側は外国人と言葉が通じないことへの不安や、国民性の違いによる

る医療訴訟の可能性等への課題を指摘する声も大きい。トリポッドではそういった現場の声を反映し、独自に通訳スタッフを確保、診断書の翻訳ソフトの開発を進め、問診から受診までの全工程に通訳が立ち会う。「現場から不安の声があるのは事実だが、実際には、すんなり受け入れることができた、と評価する声が多い」と両氏は話し、「既に外国人はほとんど来県している。県民意識を『開国』していく必要がある」と提言する。

医療現場で国際化を進める動き  
通訳スタッフの雇用などで対応

実際に中国からの医療ツーリズムの旅行者を受け入れた社会医療法人友愛会・豊見城中央病院では、人間ドックとがん検診を実施した。がん検診では最新型のPET画像診断を行い、医療の質の高さを示しただけでなく、受診者への対応の良さ

## 南城市ウェルネス事業

<http://www.nanjo-wellness.com/>

南城市では心と体の癒しと健康をテーマとしたウェルネス事業を2010年度からスタートし、2011年4月からユインチホテル南城でのウェルネス事業試験運用を開始、2012年度の本格実施を目指している。豊かな自然環境の中での癒しの旅を提案し、2011年2月、5泊6日の日程で中国からの医療ツーリズムモニターツアー10名を受け入れた。拠点となったユインチホテル南城は医療法人タピックの関連会社であるタピック沖縄株式会社が運営、沖縄リハビリテーションセンター病院での人間ドック、琉球舞踊や三線などの体験講座、自然を体感するノルディックウォーキングなどを行った。滞在中、沖縄の観光地を周遊し、ショッピングなども楽しんだ。



海辺をノルディックウォーキングで散策するプログラム（写真左）や、三線の演奏体験で沖縄の自然や文化を満喫した一行。



友愛会の豊崎クリニックや健康管理センターで最新機器を使ったがん検診や健康診断を行う



「観光立県として、世界情勢に目を向ける姿勢が必要」と話す潮平院長

をアピール。中国での利用が多い銀聯カードでの支払いも可能にし、利便性を高めた。潮平院長は、「モニターツアーで起こった問題はその都度調整をすることでクリアし、大きな問題は生じていない」とスムーズな受け入れだったという。日中双方の利用者に配慮した対応として、医療ツーリズムの旅行者のみの受診日を設けることを検討している。

受け入れるきっかけはトリポッドと同様、外国人の救急患者への受け入れ態勢の

確立だった。そのために中国出身者を通訳スタッフとして採用。今後は国際部を作り、外国人に対応する専属部署を設置するという。さらにタイや中国の病院との連携も動き出し、国際医療交流を進める。

地域診療が手薄になるのではとの一部の危機感については、「これまで医師不足が問題となっている八重山や久米島へ医師を派遣し、地域医療を支えてきた。その姿勢は今後も変わらず続け、当院を受診する患者に対しても悪影響はない」と潮平院長。沖縄の経済的自立のために、「観光立県・沖縄の安心安全なインフラとして外国人も対応できるような救急医療体制の構築と、魅力的な観光資源としての健診を中心とした医療ツーリズムの構築を早急に進めていきたい」と動き始めている。

### 雇用の場として医療の産業化を長期滞在型にも大きい需要

独自の視点から医療ツーリズムを推進しようとしているのが医療法人タピックだ。専門分野のリハビリが中国では認知度が低い上に、体制が整っていないことから、リハビリでの長期滞在型受け入れを目指す。きっかけは2010年、同法人系列のタピック沖縄株式会社が運営する南城市のウェルネスリゾート沖縄休暇セン



「リハビリ医療の質の高さをPRできる」と語る宮里理事長

ター・ユインチホテル南城に中国からの一行が宿泊した時のこと。同法人が経営する沖縄リハビリテーションセンター病院を見学したいとの申し出が急ぎょあり、優しく丁寧に接する医療従事者の姿を見たメンバーから驚きの声が上がったという。それを機に2011年から南城市が実施しているウェルネス事業の一環として、モニターツアーを受け入れた。同病院では2010年11月に健診専用の待合室を設け、宿泊できる部屋も1室設置。「幸寿ドック」と銘打った脳と心のドックを県民向けに実施してきたが、中国人にも高評価だったという。

タピックの宮里好一理事長は、「日本のリハビリ医療制度は他国に類を見ないほど進んでいる。暖かな沖縄だからこそできるケアや、独自の文化や自然体験の観光要素を組み合わせていることによって沖縄の良さをPRできる」と語る。リハビリの場合、通常は長期間の滞在が必要で、治療費だけでなく滞在費が「外貨」として入ってくる点も魅力だという。「厳しい国内の財政状況の中で、医療費に関する政府の歳出抑制策が図られているが、医療ツーリズムによって利益が出た分、日本国民の医療を下支えし、より医療の質を高めていくことにもつながる」と宮里理事長。「医療は福祉サービスの場としてだけでなく、雇用の場、つまり産業と言わなければならない」と現状を認識し、医療を確実な成長分野と位置づける。「国際性」はタピックが設立当初から掲げてきた基本理念のひとつ。中国人スタッフを雇用し、受け入れ時の通訳のほかに、職員を対象とした中国語講座も開講。「難



写真上・左) 4か国語の表記がされた健診専用の待合室。写真下) 職員の対応の良さに驚きの声が上がったという健診の様子



しく考えすぎずに外国人と触れ合う機会を作っていけば、対応も慣れてくる」と人材育成にも積極的に取り組んでいる。

医療ツーリズムの受け入れは、各医療機関や企業が独自にシステムを構築し、進めているのが現状だ。現場の医療関係者が異口同音に求めているのが受け入れ態勢の充実。中国を中心としたアジアの富裕層にPRすれば、着実に需要があるとの認識も医療ツーリズム受け入れの現場では共通の声である。国による医療滞在ビザの実現や、県などによる海外へのPR活動といった、行政側の本格的なバックアップ態勢の確立とともに、受け入れる病院側の医療ツーリズムに対する理解と実践が、今後の医療ツーリズム推進の鍵を握っている。

- 株式会社 Tripod  
<http://www.tripod-okinawa.jp>
- 社会医療法人 友愛会  
豊見城中央病院  
<http://www.yuuai.or.jp>
- 医療法人 タピック  
沖縄リハビリテーションセンター病院  
<http://www.tapic.jp>

# オピニオン リーダー に聞く

株式会社沖縄銀行  
頭取 玉城義昭さん

—2011年6月に就任されてからのご感想をお聞かせください。

スケジュールに追われた半年でした。私ども金融機関は、お客様の動向や状態、ご希望を細かく拾い上げる必要があること、より近くでお客様の声をお聞きすること、もっと力を入れていきたいというのが率直な気持ちです。「おきぎんファミリー」のトップとしての重責を実感しております。しっかりと健康管理をすることも肝要だと思っております。

—2011年の県内の経済状況をどう捉えていますか。

2011年は日本経済も含め沖縄経済にも激震が走りました。沖縄経済の中軸をなしている観光産業への影響も大きく、基幹産業として足腰の強い産業にする重要性が顕著になったと思います。多くの自然災害を境に、沖縄県においては太陽光や風力を使った環境配慮型発電モデル地域として、また、海外や県外へ向けた農産物や海産物の生産拠点としての成長の可能性が高くなることも考えられます。2011年は総じて困難な年でしたが、見方を転じると、新たな構造転換への「きっかけ」となった年になるのではないかと思います。

—厳しい経済状況を改善するために、中小企業を盛り上げる事業を積極的に展開されていますが、その成果と今後の可能性をお聞かせください。

当行は地域密着、地域貢献を経営理念

## 地域経済活性化を具現化するために 県産品の国内外への販路拡大等 個別企業を積極的に後押し お客様の細かなニーズに対応したい



といたしております。「地域経済の活性化」に向けて、個別企業の後押しを行ってまいります。具体的には「おきぎん美ら島商談会」「おきぎん元気応援ファンド」「後継者塾」などです。

「おきぎん美ら島商談会」は地元企業の販路拡大支援と地場産業の活性化に貢献することを目的に、2010年度から始めました。沖縄の県産品を県外や国外に売り出す好機として積極的に活用していただき、各方面からの大きな評価とともに実績も予想以上となっております。企業が努力や工夫を不断なく地道にやることが本当の実力につながると考え、最低10年は続けていきたいです。県も国外へのPR活動やハブ事業に力を入れていることを心強く感じ、我々も積極的に関与していこうと考えております。

「おきぎん元気応援ファンド」は沖縄経済の成長基盤強化に向け、2011年度末までを取扱期間として創設し、地域経済の成長分野へ取り組むお客様を支援しています。また、沖縄の将来を担う経営者が集まって勉強する場として「後継者

塾」を2009年度より開講し、参加者同士のネットワークも築いていただきたいと思います。

—20年以上続いているおきぎんふるさと振興基金の実績と、基金を活用したいと考えている方へのメッセージを。

1989年に創設され、第1回助成を1991年に行い、産業、学術、マスメディア、環境、コミュニティー部門における助成先の総数は206に上り、総額1億3720万円となりました。大きく発展した企業や、顕著な研究成果を多数輩出し、うれしく思っております。「沖縄に役立つことであれば全て応募可能」という思いで運営していますので、ぜひ応募してください。その中から、沖縄の発展に寄与する活動がひとつでも多く花開くことを願っています。

—ファイナンシャルプランナーや中小企業診断士など高度な人材育成にも取り組まれています。今後、どのように配置していくのでしょうか。

ファイナンシャルプランナーの最上級資格である1級FP技能士と国際的資格のCFPが33名在籍し、借入の相談や金融資産運用などに関する相談を受けています。今後、全64店舗に配置し、しっかりとアドバイスできる体制を整えていこうと思います。中小企業診断士は31名在籍し、経営診断サービス、事業承継、M&Aなど企業のニーズに即した相談業務を行っています。今後、全エリアの母店へ配置することを目指しています。

専門資格を取得した職員を戦略的に配置することによって、お客様に役立つ情報を発信し、「まずはおきぎんに相談してみよう」と、ご相談いただける体制作りを進めていきたいと思っています。

## 海外 REPORT from 香港

# 競争激化する 香港市場の攻略法

沖縄県産品海外販路開拓の新たな成功モデルとは？

沖縄を訪れる観光客数が5年間で50倍という驚異的な数字を記録する香港。その香港で今、沖縄県産品の販路が飛躍的に増えているという。山城香港事務所に県産品の販路拡大の現状と課題を伺った。

観光が牽引した「沖縄ブランド」

約6年前の調査では、香港市民の半数以上は沖縄を知らず、食品業界のバイヤーでさえ「沖縄県産品は割高で売れない」という冷たい反応でした。当時の県産品の定番化数は4店舗で30アイテム程度。ところが2008年に香港沖縄直行便が就航して以降、沖縄の認知度が急上昇。「美容・健康」「安心・安全」をキーワードに県産食材をブランドディングしていった結果、現在では約500アイテムの県産品が300店舗以上の量販店、30店舗以上の飲食店で提供されています。

オリオンビールの大躍進

秘訣は「流通改革」にあり！

数多くある沖縄県産品のうち、最も顕著

——2012年の経済予測はどのようなものでしょうか。また、沖縄銀行の果たす役割についてどのようにお考えですか。

世界金融の見通しが難しく不透明な状況にあって、世界の動向をウォッチングしながら、日本や沖縄の実体経済への影響を、アンテナをはって、しっかり把握していく必要があると考えています。

県経済は2011年4月から9月までの各種データから見ると、「一部に下支えの動きが見られ、全体では停滞感やわらぐ県内景況」でした。2012年は、GDPの中でもウェイトの高い個人消費は、人口増加や旺盛な消費気質などを背景に引き続き強含むことが考えられています。

しかし、エコポイントやエコカー関連施策により喚起された需要の反動、世界経済の先行き不透明さを懸念する動きから国際商品価格の変動などにより需要低迷を引き起こす可能性もあります。

経済関連は新たな沖縄振興計画がスタートするものの、国の厳しい財政状況から公共投資抑制の動きは変わらず、全体的に弱含みで推移するとみられています。沖縄の基幹産業である観光関連は、九州新幹線や格安旅行会社の就航によって需要が分散化されることが考えられますが、海外での知事のトップセールスやスポーツイベント受け入れの強化、中国からの沖縄マルチビザ効果も期待され、全体では横ばいで推移すると予想されます。

言ではなく、上位50店舗程度の市場を目標にしているのはビジネスとしては到底成り立ちません。そこで今、沖縄県産品のメーカーが「販路開拓の本丸」として狙っているのは、「ウエルカム」と「パークンショップ」の二大小売チェーンです。

ある食肉加工メーカーは、ウエルカム顧客の嗜好分析、類似商品の価格帯調査、需要の価格弾力性の分析を踏まえ、香港市場に特化したPB（プライベートブランド）商品の開発に取り組んでいます。また、ある塩メーカーは、パークンショップのバイヤーを相手に同様の交渉を進めています。両事例の共通点は、県内や日本国内あるいは観光客をターゲットに開発した商品をそのまま海外市場に持ち込むのではなく、ターゲットとする市場のマーケティング調査を踏まえて商品開発をする、いわゆる「マーケティングの発想」で戦略的に取り組んでいる点です。

観光と物産の連携

公的助成金の活用を！

地方特産品の販路開拓に取り組むにあたり、沖縄県が他府県と比べて圧倒的に有利なのは、「沖縄ブランド」として観光施策と連携した商品の販促活動が期待で

我々の使命は、地域経済の活性化、産業企業の活性化を後押しすることにあります。県の施策との積極的な連携を取りながらしっかりとやっていこうと考えています。具体的にいきますと医療・観光、物流、ITの3分野を沖縄の基幹産業として育成していくための取り組みです。医療と観光を結びつけた万国医療津梁創出事業は、おきぎん経済研究所が国主体事業の事務局事業を受託しています。先ほどお話ししました美ら島商談会やハブ事業についても販路拡大の支援や物流拠点形成への協力体制を取りたいと考えています。これらの事業はまだ緒に就いたばかりですので、それをしっかりと継続していきたくと考えております。

8月に開催された香港ジャスコの沖縄フェア（コーンヒル店）



オリオンビールは2日間で完売



きる点です。産業振興公社では、香港における観光・物産の各種プロモーション事業や、各種広告支援、定番化プロモーション支援など、県内企業の海外販路拡大を支援する各種助成事業を実施しています。

【香港事務所への連絡先】okinawa@hk.ntl.net

# 経営者は語る

## 組織を守る「鉄の心」 経営者として大切な「情の心」 二つの心で安心安全な食を

株式会社 オーディフ 代表取締役 普天間初子さん



徹底した衛生管理を行っている調理場

所在地:〒901-2121 浦添市内間1-7-12  
電話番号:098-875-1291  
創業:1983(昭和58)年9月1日  
会社設立:1989(平成元)年8月1日  
事業内容:給食及び飲食関連の業務  
請負、各種施設の集団給食請負、食堂・喫茶・売店の運営等  
本社サイト:<http://odf.co.jp>

寮生達にアチココーのお弁当を食べさせたいと思う「親心」から、昼食時間に作りたてのお弁当を届けに行くこと、温かいお弁当は注目を集め、他の生徒から注文が相次いだ。その様子を見た同校の理事長

一人何役もこなした。寮生達にアチココーのお弁当を食べさせたいと思う「親心」から、昼食時間に作りたてのお弁当を届けに行くこと、温かいお弁当は注目を集め、他の生徒から注文が相次いだ。その様子を見た同校の理事長

### ● 学生寮からスタートした食の提供

「家庭の食事を給食に」をモットーに、一日3万食以上を学校や社員食堂、沖縄県庁内の一般食堂、福祉施設などに提供する株式会社オーディフ。代表取締役の普天間初子さんは、26カ所の事業所、約350人の従業員を束ねる。創業は1983年、県内の老人福祉施設で栄養士として働いていた42歳の頃だった。知り合いの私立高校の教員に勧められ、故郷の浦添市で学生寮を開いたのが始まり。「大きな志を持って起業したわけ

が校内食堂を作り、運営を委託された。1987年には同校中学生への完全給食の実施が決まり、二つ返事で引き受け「給食屋」としての事業が始まった。2年ほど経つと、他の私立学校からも給食提供の相談を受け、2校、3校と着実に実績は伸びた。

さらなる転機が訪れたのは1990年。沖縄県庁舎の新築に伴い、一般食堂の営業が公募された時だった。ラジオから流れた情報を偶然耳にし、すぐに企画書を作成。26社の応募の中から白羽の矢が当たり、それが現在でも続く沖縄県庁内食堂「南天」だ。公立学校給食への民間参入が始まると次々と県内大型学校給食調理場の受託をするようになり、本格的な給食供給会社へと成長。産業給食と学校給食の2本柱で経営基盤を固めていった。

### ● 徹底したリスク管理を実践

最近では食の多様化が進み、学校給食に対する保護者のとらえ方もさまざま。とくに食材の放射能汚染問題も含めた「安心安全な食」への関心は高まり、問い合わせも増えた。また、食のアレルギーに対応するため、アレルギー表等の資料を添付し、保護者との情報交換を密にして



ふてんま・はつこ 1941年浦添市生まれ。沖縄県立首里高等学校を卒業後、東京栄養食糧学院で栄養士の資格を取得。慶應義塾大学病院、沖縄県内の老人ホームで栄養士として働く。1983年、浦添市で株式会社オーディフを創業。現在、学校給食部門15カ所、産業部門7カ所、福祉部門4カ所で食事を提供している。

いる。「料理を安心して口にできるように、放射能汚染問題についても産地ごとの情報を収集しながら材料調達した上で、調理時の衛生管理を徹底することこそがオーディフの根幹にある」と普天間さん。安心安全な食材の調達、調理過程での衛生管理、従業員の健康管理を含めた社内教育は、妥協を許さず貫いてきた経営方針のひとつでもある。

そして、組織が拡大しても忘れたことのないもうひとつの経営方針は、現場で働く社員を大切にすることだ。「組織運営は鉄の心を持ち、理路整然とルールを守り、会社を愛する心の重要性を周知させることが組織を生き延びさせる手だてである。一方で、経営者としては社員を大切にすることを決して忘れてはいけない」と語り、その信念はゆるぎない。思いやりを忘れない「情の心」は地域社会にも広がり、クリーン活動への参加、自社の調理過程で出る廃油を使った石鹸作り、営業車のエコドライブ推進など、社会貢献活動を行っている。

創業からこれまで、普天間さんは持ち前の行動力を発揮し、時代のニーズに立ち止まることなく前へと進んできた。「リスクの高い仕事も実際にあったが、私達がやらなければいけないと思い引き受けてきた。リスクばかり考えていたら物事なんて進まない」と冒険とチャレンジ、食のプロとしての使命感を持った攻めの経営は一貫している。

次なる目標は後継者の育成であり、社員の作業環境の整備や健康の維持促進を目指す安全衛生管理者の養成。心のケアが重要視される時代のニーズに合わせるためでもある。「創業以来、がむしゃらに前を向いて歩いてきましたが、いつも反省の連続。今後も他人様を大事に考える「利他主義」を第一に、チームワークを忘れず生きていきたい」。食の安全を守る母親の視点と経営者としての厳しい視点を併せ持ちながら、普天間さんのチャレンジ人生は続く。

# 「食品技術の 展示会」

よせやま話

商品開発

でいきたん照屋の

22

**顧** 客や消費者のニーズにあった企画と、的確な販路の開拓に営業担当者は尽力されるでしょう。

一方、企画やアイデアを具現化するためには、それに対応した製造技術が求められます。優れた製造技術を持ってこそ商品の差別化ができたという場合もあります。ですから商品開発においては、営業担当者と製造担当者がうまく連携できてこそ、その会社の力量が真に発揮できるのだと思います。そのような開発体制の構築はできていますでしょうか？

販路開拓に臨む営業担当者の出会いの場としてフォーデックスジャパンやスーパーマーケットトレードショー、健康博覧会に代表されるさまざまな商談会や商品展示会が催されますが、他方では開発・製造担当者がものづくりの技術と出会う場が設けられています。その代表的なものをご紹介します。いずれも開催場所は東京ビッグサイト。

## 【国際食品素材／添加物展・会議 ifia JAPAN】

例年5月ごろに開催。食品の美味しさ、美しさ、食感や品質の改良、日持ちや安定性の向上、コストの低減化、保健機能の付与などを実現する食品素材や添加物、技術などが展示されます。

## 【食品開発展】

2012年は10月開催。保健機能素材、健康食品素材、栄養強化素材、オーガニック食材、健康食品受託企業などが展示されます。

## 【国際食品工業展 FOOMA JAPAN】

6月ごろ。原料処理、製菓製パン、畜産水産物加工、麺類、惣菜・弁当、飲料、発酵・醸造などの機械設備、加工技術、鮮度保持技術、包装充填技術、計測分析機器等の総合展示会。

これらの技術展にまだ行ったことのない方は、インターネットで検索してみてください。さまざまな実用技術を知ることが、開発力の向上につながります。



文・照屋隆司(てるやりゅうじ)

(有)開発屋でいきたん代表取締役。食品・生物資源産業分野の技術系コンサルタント。酒造会社・県農業試験場(株)TTCを経て99年より現職。(財)沖縄県産業振興公社専門コーディネーターを兼任。(独)国立健康栄養研究所認定NR。(社)日本産業カウンセラー協会資格登録・産業カウンセラー。カウンセリウム「キャリアオアシス楠」主宰。  
<http://www.dikitang.jp>

ヒット商品から学ぶ  
目からウロコの開発ヒント

第3回  
嘉手納町



「グアバナティー」

発見!  
ご当地  
ヒット商品

農園は読谷、恩納村に6カ所。農業や化学肥料を一切使わないため、虫が付くと手作業で1匹ずつ取り除き、グアバの若葉のみを摘み取って原料にする。

商品開発を進めながら並行したのは販路開拓。嘉手納町商工会に加入し、経営指導員の萩堂盛臣さんから道の駅かでの出品や、沖縄の産業まつりへの出展

沖縄で民間療法として昔から飲まれてきたグアバ茶は特有の苦みや渋みがあるが、その味を大きく変え、「ノンカフェインで子どもでも飲める」商品として注目されたのがグアバナティーだ。商品化したのは自然茶工房ナチュリティー・カデナの我那覇健さん。父親が営むグアバ農園を引き継ぎ、2年かけて独自の商品開発を進めた。飲みやすさを実現するため、日本茶のまろやかさを出す手法として知られる手もみの技を独学で習得した。利用者の使い勝手にも配慮し、通常のリーフ型のほかに、1回分(3g)ごとにグアバの葉を巻いたかわいらしい形のロール茶がある。

を後押しされた。現在はネット通販のほか本土の通販会社からの発売も決定し、順調に販路を拡大し、生産が追い付かないほどだ。

手もみの技術は我那覇さんだけが持っている。現在は1カ月の生産量は1500個。2012年には月1万個の生産を目指しているため、技術者の養成は急務である。萩堂さんは「行政にも働きかけて人材育成への支援策を検討し、嘉手納町の特産品として広く知られるお茶にしたい。そして雇用場となる企業に成長してほしい」と期待する。我那覇さんも「嘉手納町に店を出すのが夢だった。将来的には農園も町内に持ち、純嘉手納産のグアバナティーにしていく」と意気込みを語る。2011年11月には嘉手納ロータリー近くに新工房をオープンし、今後、ショップも併設する予定だ。

パッケージデザインは沖縄県立芸大に通う娘さんが担当し、自然をイメージさせる素朴なイラスト入り。シンプルで洒落たデザインは観光客からも好評だ。



パッケージデザインは沖縄県立芸大に通う娘さんが担当し、自然をイメージさせる素朴なイラスト入り。シンプルで洒落たデザインは観光客からも好評だ。

## HIT! POINT!

### ① 飲みやすさ

健康に良いお茶を長く飲み続けてもらうことと、小児成人病が増えている子どもにも飲んでもらえることを目指し、「おいしくて飲みやすい」お茶にするため試行錯誤。有効成分は残しつつ、手もみの時の圧力のかけ方によって渋みや苦味、臭みを取り除くことに成功し、さわやかでのごしの良い味となった。

### ② ロール茶

グアバの葉の形を活かしながら手作業で巻き上げ、お湯を注ぐと葉が開く。巻いた外葉と中心の葉を均一に乾燥させるための独自の方法を編み出し、乾燥機や焙煎機等の熱を加えずに乾燥させる点が特徴。葉の摘み取りから乾燥まで4日、製造方法と形状は特許出願登録済み。



### ③ 販路拡大へのアドバイス

できるだけ多くの人に飲んでもらうため、嘉手納町商工会の紹介で、観光客や地元客が多く訪れる道の駅かでのなや恩納村のおんなの駅で販売を始めた。恩納村では商品がリゾートホテル関係者の目にとまり、ホテルでの販売もスタートし、着実に販路を広げている。



ナチュリティー・カデナの我那覇さん(右)と嘉手納町商工会の萩堂経営指導員

問い合わせ 自然茶工房 ナチュリティー・カデナ 嘉手納町嘉手納278 ☎098-989-9375 <http://www.guavana-nature.com/>

沖縄県産業振興公社

× 会員企業

# ネットワーク会員広場

このコーナーでは、ユニークな商品を開発するなど、独自の取り組みでオンリーワンを目指す企業を紹介したり、沖縄県産業振興公社ネットワーク会員企業の新商品情報、講演会や懇親会の企画などを発信していきます。

沖縄ベンチャースタジオ  
http://ovs.jp/  
沖縄ベンチャースタジオ 検索

## 元気企業紹介 株式会社 拓琉金属

### 機密書類を厳重管理の上で抹消処理し、完全リサイクルへ

株式会社拓琉金属（本社・浦添市）は、企業が抱える重要書類の機密抹消処理システムを導入し、2011年9月から、豊見城市の豊崎工場内で本格的に処理を始めている。同社ではこれまで家電やOA機器の処理、リサイクル事業を手掛け、OA機器に残されていた重要データの消去も実施していた。機密書類の処理に困っている会社からの要望があったこと、全国的に進められている機密書類の処理システム構築が沖縄のみ未整備の状況だったため、全国情報セキュリティ&リサイクルネットワークに加盟し、機密書類の回収・処理を行うことになった。

機密書類は段ボールや、厳重に保管されるセキュリティボックス（レンタル）に入れる。分別やファイルからの取り外し、クリップの除去も不要だ。書類が溜まったら回収を行うが、運搬車には警報機、GPS機能を搭載し、運搬中は専用の保護カー트에載せ、特殊キーを装着して、

処理施設の到着時までキーを開けることができない仕組み。処理施設内で書類からクリップやファイル等を取り外し、ほとんどがその日のうちに破砕機で処理される。処理施設は限定された社員以外が入室できないよう厳しくチェックされ、各ポイントに監視カメラを配置。これらの全工程を同社社員で行い、第三者委託を一切しない点も特徴のひとつだ。破砕片はその後、製紙工場に搬入、完全リサイクルされ、紙製品になる。

現在、拓琉金属に文書の処理を依頼している企業のほとんどが従来は自社でシュレッダーにかけて廃棄処分したり、なかには本土の専門業者に船で輸送して処分するなど、時間や手間、費用がかかったという。同社の古波津清晴管理部長は、「当社がこの処理システムを導入して、お客さまからは、コストも下がり、安心して機密情報の処理ができる」と評価を頂いている。リサイクルもできて環境に優しい処理方法として多くの企業に知ってもらいたい」と話す。2012年度中には2700社の取得を目指している。



破砕機と処理された紙片。シュレッダーでは細かすぎて繊維まで分断されリサイクルできないが、この大きさなら情報はきちんと裁断されリサイクルも可能に。



「解錠まで何重もの工程がある」と厳重管理のセキュリティボックスを前にした古波津管理部長（写真右）と呉屋安信家電機器リサイクル部課長。

株式会社 拓琉金属  
☎098-876-3548  
www.takuryu.co.jp

## 公社ネットワーク会員 PRESS RELEASE

### 事故の渋滞情報をメールで配信。「どこがドット混む」メール会員募集中!

通勤途中で渋滞発生! 「何が原因なんだろう?」とイライラしながら車中を過ごしたことは誰でも経験があると思います。「どこがドット混む」では、事故による渋滞をいち早くメールでお知らせすることにより渋滞を回避し、さらなる渋滞増加を緩和することができます。登録・月額費は無料（通信費は各自負担）。簡単に登録・退会でき、登録時に欲しい情報の幹線道路を選択できるところも特徴です。



どこがドット混む (奥浜)  
http://www.docoga.com

### 沖縄のまぶしい太陽にも溶けないチョコ「焼きショコラ」新登場!

ちんすこうショコラでおなじみのファッションキャンディが「沖縄焼きショコラノワドココ」を新発売しました。お土産にも安心して購入していただけるよう、チョコレートを溶けにくくアレンジし、新しい沖縄のお菓子に。マイルドなミルクチョコをベースに、南国のイメージでココナツの風味豊かに仕上げました。サクサクのフレークをアクセントにしたフワッと軽い食感の焼きショコラです。



(株)ファッションキャンディ  
☎098-897-5194 (伊藤)  
http://www.fashioncandy.co.jp/

### 沖縄もずくを練り込んだラーメン カロリー 52%OFFでヘルシーに

ラーメンに沖縄もずくを練り込んだ新タイプのオリジナルラーメン「もずく・いか墨入り低カロリーラーメン」。トッピングにももずくを使用して、カロリーは従来のラーメンに比べ52%OFF。ラーメンともずくの異なる食感を楽しめて食べごたえは十分です。味のタイプはごま塩味(223kcal)、とんこつ味(236kcal)があり、各2食入りで定価は420円(税込)。県内のスーパーで11月～3月までの期間限定で販売しています。



イトサン(株)  
☎098-995-1896 (本田)  
http://www.mo19.com/

(財) 沖縄県産業振興公社では、さらなる企業支援の拡充・強化を目指し、ネットワーク会員を募集しています。会員特典として会員間の交流、有料セミナー・公社ホームページ・バナー広告・メールマガジンへの掲載料金の割引、ビジネス関連ビデオの貸し出しなど様々な特典メニューをご用意しております。詳しくは <http://okinawa-ric.jp/useful/etc/4380.php> まで。 担当：外間、砂川

## 6次産業化とは何か

6次産業化とは、1次産業に、2次産業、3次産業を掛け算することで、1次産業とその周辺産業の規模を拡大していくこととするものです。足し算ではなく、掛け算なのがポイントで、主体である農林漁業者と、食品産業、観光産業、1次産業、化粧品・医薬製造業、エネルギー産業などが連携し、互いに補い、長所を活かすことで、農林水産物の新規販路開拓や、輸出への取り組み、新商品の製造・販売、地域資源を活用した観光等への取り組みなど、地域の実情に合った多種多様な展開が期待されます。

農山漁村には、農林水産物、バイオマス、自然エネルギー、風景・伝統文化など、さまざまな「地域資源」が豊富に存在します。これらの資源を活用し、農林漁業者が、加工や流通や販売に組み込み、新たな付加価値をつけることで、農山漁村地域の再生と活性化を実現させることが6次産業化の目的です。

「6次産業化法」という新しい法律も平成23年3月1日に施行され、沖縄では、これまで9件の事業計画が6次産業化法に基づき認定を受けました。認定事業者は、農業改良資金（無利子）の特例措置、短期運転資金（スーパース資金）の活用や、新商品開発・販路拡大の取組に対する補助金、専門家のアドバイス、情報提供などの幅広い支援を受けられます。

沖縄総合事務局はサポートセンターを設置し、6次産業化に関するアドバイスや認定に向けた支援を行っています。



いむら りょうお  
伊村 陸男

オフィスデイオフ 代表  
沖縄県産業振興公社登録専門家  
6次産業化プランナー  
中小企業診断士  
TEL・FAX 098(889)4532  
E-mail: officedayoff@gmail.com



沖縄6次産業化サポートセンター  
委託支援事業者：  
(株)おきぎん経済研究所  
☎ 098-869-8711  
FAX 098-869-2200

### マーケティングコラム

（財）沖縄観光コンベンションビューローでは、2011年12月からアクティブシニア向けプロモーション「大人のふたり旅」をスタートさせました。プロモーションでは、子どもの手が離れ、時間とお金に余裕ができた金持ち層といわれる層「40代後半～60代」の夫婦をターゲットにしています。なぜこの層なのか、なぜ夫婦なのか、その答えは、じゃらんの「宿泊旅行2011」にあり

### 日々雑感

「千思万考」沖縄旅行を支える新たな柱!?  
アクティブシニア

ました。宿泊旅行実施率を見ると全体の約53.0%が「50歳～79歳」のシニア層で占めており、シニア層の旅行関心度が高いことが窺えます。また、旅行形態は「夫婦ふたりでの旅行」が24.4%で最も高く、この傾向は2005年度の調査から変わらないうえ、安定的な需要があるといえます。この結果から「アクティブシニア層の夫婦」は、観光立県である沖縄にとって大変魅力的なターゲット

であるといえます。博報堂「新しい大人文化研究所」が、アクティブシニアがもたらす経済効果が高いと結論付けているところからも、沖縄にとって新たな観光の柱となる可能性を十分に持っていると考えられます。

### ともしよとち 友利至伯

株式会社アドスタッフ博報堂  
マーケティングソリューション局 R&D 推進部  
アソシエイト マーケティングプランナー

1980年浦添市生まれ。05～08年までオクラホマ州立セントラルオクラホマ大学にてマーケティングを修学後、同社へ入社。アカウント局を経て、マーケティングソリューション局へ配属。現在は官公庁、民間企業のリサーチ及びプランニング業務に従事。

### 沖縄の陶芸を暮らしに 全て一点物の表札や洗面鉢



#### お問い合わせ

沖縄南の島陶芸工房  
読谷村都屋443  
☎098-957-1776  
http://www.rakuten.co.jp/okinawa-minami/

陶芸作家・大岩浩章氏の工房で創作される表札や洗面鉢。定番商品は表札200種、洗面鉢100種を超え、毎月新作を発表し、オーダーメイドも受け付ける。表札は、角型、円形、動物の型抜きなどがあり、陶器と琉球ガラスの組み合わせや、明るい色柄の紅型モチーフ、シーサーを立体的にあしらった沖縄らしい商品が人気を集めている。手洗い鉢は、シンプルな色柄、流行のドット柄、沖縄陶芸の代表的な魚紋など、インテリアに合わせて選ぶことができる。置き型タイプは内側だけでなく外側の模様も特徴的だ。表札、洗面鉢ともに土などの配合具合を調整して強度を高め、焼き上がった時の色や質感に個性を持たせる工夫も。1点ずつ手作りされ、陶器の温もりが伝わる表札、洗面鉢となっている。

### うりひゃ～!!ウチナ～むん

### 優しい甘さにふんわり口どけ 黒糖わたあめ



#### お問い合わせ

垣花食品  
浦添市勢理客3-4-13  
☎098-988-8193

沖縄産の黒糖を使った黒糖わたあめ。従来の20分の1に圧縮し、常温で2カ月間日持ちするという、これまでのわたあめのイメージを一新させた商品だ。それまでは黒糖だけでは、黒糖が溶けてしまいわたあめ状にならなかったが、垣花食品が試行錯誤の末、黒糖と砂糖の配合の割合によつてわたあめ状になることを発見。黒糖と砂糖の配合率とともに、圧縮プレートについても、平成21年に特許を取得した。特徴的なのは口どけの良さ。口に入れるとすつと溶け、後からふんわりと広がる黒糖の風味。固形の黒糖を食べられないお年寄りや、「大きなわたあめを持ち歩くと恥ずかしい」という甘党の男性にも好評で、リピーターがつくほどの人気を集めている。30g入り、定価420円

## TOPICS

那覇市・福州市友好都市締結  
30周年記念事業

中国福建省福州市。この地は沖縄の歴史と深い関わりがある場所です。600年以上前、沖縄がまだ古琉球と呼ばれていた時代、福建から多くの学者や技術者が来琉し、福建との交流は琉球の文化・経済・教育のあらゆる面で発展の基盤を創り、さらには東アジアの貿易国家への成長の礎となりました。

今年、那覇市と福州市の友好都市締結30周年という記念すべき年を迎え、「那覇市・福州市友好都市締結30周年記念事業」が、11月4日から5日間、福州市にて開催されました。

この事業では、記念式典や祝賀会をはじめ、人的交流と経済交流をさらに深めるため、物産と観光展、観光セミナー、商談会が開催されました。物産展では、県産品のパネル展示をはじめ、ゴーヤーチャンプル、ジュシー、ラフティなどの試食販売が行われ、なかでもポーク卵おにぎりは完売するほどの人気を集めました。

観光展では、紅型衣装を着て記念撮影ができるコーナーや、エイサーの披露など、沖縄の伝統文化に直に触れていただきました。また、今年の7月から中国人個人旅行者に対する「沖縄マルチビザ」の発給がスタートしたこともあり、来場者からは数々の質問が寄せられました。

現地政府機関や旅行業界などの関係者を招いて開催された観光セミナーでは、世界水準の観光リゾート地沖縄の魅力を紹介するとともに、「沖縄マルチビザ」の周知を図り、福州市からの観光客誘致を広く呼びかけました。一方、沖縄県内企業と現地企業によるマッチング商談会には、健康食品や環境分野等の関連企業が参加し、中国市場における販路開拓に熱心に取組

む様子を見ることができました。

2012年は、沖縄・福建友好県省15周年の節目を迎えます。沖縄県はそのプレイベントとして、福建省関係者、商談会出席企業等を招待し、「沖縄・福建友好交流会」を開催、交流のさらなる深化を呼びかけました。交流会のフィナーレでは、沖縄福建即興バンドも結成され、会場全員でのカチャーシーで盛り上がり、人々の熱気溢れる笑顔で幕を閉じました。

沖縄と福建、国と言葉は違いますが、6世紀にわたり築いた絆が、節目の年を契機に今後ますます交流を深め、両県省の発展に繋がることを願います。

産業振興公社では福州駐在員を配置し、福建省との国際交流推進や県内企業等の現地活動支援など、さまざまな活動を行っています。詳細については海外・ビジネス支援課までお問い合わせください。



記念式典でのテープカット

産業振興公社  
海外・ビジネス  
支援課  
098-859-6238  
富澤・花城

「第35回沖縄の産業まつり」で  
企業が積極的にPR

「県産品 使う『みんな』が主役です」のテーマのもと、第35回沖縄の産業まつりが10月21日～23日の3日間、奥武山公園および県立武道館で開催し、出展数491、来場者数約25万人と、過去最大規模の盛り上がりを見せました。

産業振興公社では、例年県立武道館アリーナ棟にブースを設け、支援企業の出展にかかる手続き等をサポートしています。今年度は沖縄県健康産業協議会と合同で「新事業・新技術展/沖縄の健康食品・コスメ展」と題し、健康産業協議会の加盟企業3社および産業振興公社の支援企業9社の計12社が出展しました。

出展企業は、新商品の展示のほか、試飲・試食・試用を提供することにより来場者から直接商品についての反応を見聞きできる機会とあって、積極的に商品紹介やアンケートを実施していました。

開催初日には県知事が出展企業を回り自ら試飲・試食し各メディアに県産品をPRするほか、RBCの実況中継の取材も入り、熱心に自社商品について説明する企業の光景が見られました。

出展企業の事後アンケートによると、「バイヤーから問い合わせがあった」「テレビ取材でかなりの反響があった。テレビを見て店舗に足を運んだり、取り引きに関する問い合わせを受けた」「アンケート調査を兼ねて試食を行い、新商品の宣伝効果があった。テレビの取材もあり、会社のアピールもできた」「名刺交換をした業者から、見積依頼や資料送付などのアプローチがあった」「来場者を店舗へ誘客し、売上アップにつながった」「新規取引があった」「商談が進行中である」などの出展効果があったとの声がありました。

産業振興公社が取りまとめた出展する県立武道館アリーナ棟のブースは、直接販売ができないという制限があるものの、屋内であることから天候に左右されずに集客が見込める、設備等の出展手続きのサポートが受けられる等のメリットがあります。

新商品や新サービスについて、来場者の反応に直に触れることができ、新規顧客を開拓するチャンスも、是非活用ください。沖縄の産業まつり（産業振興公社ブース）への出展に関する問い合わせや相談は、例年開催約2カ月前より受け付けています。今後もよりよいブース運営を心がけていきますので、出展に関心がある企業は是非お問い合わせください。



テレビ取材を受ける出展企業

第35回 沖縄の産業まつり 産業振興公社ブース出展企業	
(株)ポイントピュール	
イトサン(株)	
(株)佐喜眞義肢	
ソムノクエスト(株)	
(株)アクアメディカル研究所	
(株)First Line	
やんばる彩葉	
(有)金城ミート	
琉球黒糖(株)	
りゅうせき商事(株)	
(有)宮城菓子店	
チューイチョコレート(株)	

(順不同)

産業振興公社  
経営支援課  
098-859-6237  
外間・田代

# 女優 満島ひかりさん

みつしま・ひかり 1985年11月30日 沖縄市出身。1997年にFolder(後のForder5)で歌手デビュー。その後、テレビ、映画、舞台で活躍。本年は主演映画「ラビット・ホラー3D」に加え、「一命」「スマグラール おまえの未来を運べ」。ドラマでは、NHK連続テレビ小説「おひさま」や、「それでも、生きてゆく」など。2012年秋公開予定の東映創立60周年記念映画「北のカナリアたち」の出演も決定している。



写真提供・NHK

「開拓者たち」(NHKBSプレミアムで全4回、初回1月1日は午後9時〜、2回〜4回は午後10時〜) 中国東北地方(旧満州)に開拓者としてわたり、ソ連軍の侵攻後、過酷な体験を経て帰国し、さらに日本各地の開拓に挑んだ人々を描いた大型ドキュメンタリー・ドラマ。満島さんは主人公のハツを演じる。

## 沖縄は「帰る場所」、そして「お母さん」のような存在 神秘的な強さやゆるやかさが、生きる源です

演技派女優として活躍している満島ひかりさんは、沖縄県出身の26歳。2011年はNHK朝の連続テレビ小説「おひさま」に主人公の友人役で出演し、活動的な女性を演じた。さらにフジテレビ連続ドラマ「それでも、生きてゆく」ではヒロインを務め、3本の映画にも出演した1年の感想を「めまぐるしい日々でした。『よくやった』と自分でも感心しています。たくさんの役柄を演じていることで自信もついたが、自分のことを『ちっぽけだな』と感じることもあったという。それでもさまざまなお母さんを通していろんなものを受け入れられるようになってきたと、精神的にも成長した1年を振り返る。

忙しい日々の中でのストレス解消法は「昼寝と鼻歌」。昼寝をすると身体の中のいらぬものが浄化されて優しくなれるし、ゆらゆら身体をほぐしながら鼻歌を歌えば、身体の緊張がとれ、身体が心地よくなると頭も冴えてくるのだそう。もうひとつのリフレッシュ法は沖縄に帰ってほしいこと。「沖縄は帰る場所。お母さんのような存在かな。…」と言いつつ、「適当すぎたまにイライラするけど」と笑う。それでもふるさと沖縄が好きで気持ちは忘れず、「沖縄の神秘的な強さやゆるやかさは、自分の生きる源です」と言い切る。大好きな沖縄の中でも、空港から沖縄市の実家までの道のり、とくに夕方から夜に変わっていく時間が好きで、沖縄に帰ってくるお約束のようにA&Wやそば屋、パーラーに寄ると、素顔を見せる。「また沖縄で暮らしたい」という希望もある。

大活躍の2011年だったが、2012年も1月1日からNHKBSプレミアムで主演作のドラマ「開拓者たち」の放映が始まる。ますます忙しくなりそうな新年の抱負をうかがうと、「もっとたくましく、柔らかな人になりたい」と満島さん。沖縄のファンへ「沖縄からの声は本当にうれしくて、とても力になっています」。そしてその感謝の気持ちをNHK「おひさま」のセリフを引用し、「皆さんそれぞれに、温かくて健康な、よき人生を…」とメッセージをいただいた。パワフルでしなやかさを持つ女優として、よりいっそう輝きを放つ満島さんのさらなる活躍に期待したい。

## 沖縄文化等コンテンツファウンドに係る投資プロジェクトの募集等について

沖縄県産業振興公社では、  
①沖縄文化等コンテンツファウンドの「投資プロジェクトの募集」  
②コンテンツ関連事業者等に対する「ハンズオン支援」  
を行っております。

### ① 投資プロジェクトの募集 第6期締切/平成24年2月22日(水)

【投資対象分野】  
映像系コンテンツ、ゲーム系コンテンツ、エンターテインメント系コンテンツ  
【投資対象プロジェクト】  
沖縄県内のコンテンツ関連事業者が中核となったコンテンツ制作プロジェクト(※沖縄県外のコンテンツ関連事業者が中核となったコンテンツ制作プロジェクトの場合、沖縄県内で活動するプロデューサーなどを活用し、沖縄県内の人材育成に寄与するプロジェクト)  
【投資規模】  
上限5千万円(総制作費の8割以内)

【投資に関する問合せ】  
テクノロジーシードインキュベーション株式会社 沖縄事務所  
☎098(863)0113 E-mail ocf@tsi-japan.com

### ② ハンズオン支援

コンテンツファウンドへ応募される事業者への支援として、プロジェクトの企画段階から実施段階にわたり、以下の支援を行っています。

- \*コンテンツ制作プランのブラッシュアップ
- \*プランの実現に向けたアライアンスの形成
- \*県外・海外市場を見据えた販路開拓
- \*知財戦略の構築
- \*制作資金と工程の管理ノウハウなど

【ハンズオン支援に関する問合せ】 産業振興公社 産業振興課コンテンツ班(杉浦、馬場、大平、新垣)  
☎098(859)6239 E-mail contents@okinawa-ric.or.jp

## ネットワーカー会員 募集中!

産業振興公社では中小企業の支援を拡充・強化するため、各種サービスメニューを用意し、「ネットワーカー会員」を随時募集しています。年会費は1万2000円。貴社の人材育成、会社や商品のPRのツールとして、是非ご利用いただけますよう、ご入会お待ちしております。

### 特典1

有料セミナー受講料割引サービス(年24回)  
・例:一般受講料:5,000円→会員受講料:3,000円(40%off)  
・入会時と更新(毎年)時には、「特別ご優待券」(無料受講券1回分)をサービス!

### 特典2

無料講演会&交流会(年1~2回)  
・会員間の親睦や連携を図る機会をご提供します。

### 特典3

公社広告媒体による企業紹介及び商品PR  
・公社ホームページの「バナー広告」及び「1行広告」の掲載割引  
・公社メールマガジンの「広告配信料割引サービス」  
・「沖縄ベンチャースタジオ」情報紙及びホームページへの会員プレスリリース無料掲載

他にもお得なサービスがございます。詳しくはお問い合わせください。

産業振興公社 経営支援課  
TEL 098-859-6237(外間・砂川)

タブロイド判 沖縄ベンチャースタジオ 30号

2011年12月22日発行  
発行:(財)沖縄県産業振興公社  
☎098-859-6237  
http://ovs.jp

編集:光文堂コミュニケーションズ(株)  
広告:(株)アドスタッフ博報堂  
TEL.098-862-4459  
e-mail:k-kakazu@adsta.co.jp

同紙についてのご意見・ご感想は  
ovs@okinawa-ric.or.jpまで  
「情報紙について」の件名を入れて送信してください。